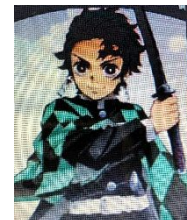




# 日本サーバス本部会報

2020.12 日本サーバス会長

コロナ禍に明け暮れた今年もいつの間にか12月になりました。会員の皆様にはいつもサーバスの活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。コロナ禍の中、如何お過ごしでしょうか。どうかご無事でお元気に年末を迎えていただけますように願っています。



コロナの陽性者が急拡大して、医療崩壊もささやかれるようになりました。本当に心配な事です。京都は感染者がそんなに多くありませんが、私は紅葉で有名な京都の東福寺に住んでいます。紅葉と共に観光客が増えて、多い時は自転車は降りて通行せねばならない位の人出です。それで普段は布マスクをしています、今はより効果のある不織布のマスクに変えました。感染者が多い地域に住んでいらっしゃる会員さんの中には感染者の少ない地域に避難している方もいられます。日本サーバスも来年春に京都で国内会議を予定しています。コロナ禍の状況が深刻でなく、無事に出来る事を願います。早く安全で有効なワクチンが出来て、世界の隅々にまで行き渡る事を待ち望む毎日です。

トラベラーの受け入れやサーバス旅行が出来ない今、サーバスでは OnLine 会議がますます活発になり、東海北陸支部も役員会等で使うようになりましたし、関東支部では台湾と Zoom ミーティングをされました。政府もデジタル化を進めていますし、私たちは今後ネット社会の便利さと危険の中で生きていく事になります。

日本サーバスに110万円を寄付して下さいだった T.K さんがお亡くなりになるという悲しい事も起きました。皆さんどうぞ T.K さんのご冥福を祈って下さい。

そんな中での明るいニュース、それは核兵器禁止条約の批准国が条約発効に必要な 50 カ国に達し、来年1月に発効が決まった事です。残念ながら唯一の被爆国である日本はまだ批准していませんが、2017年に国連で採択された条約の発効が決まった事は、何と言っても非常に嬉しく輝かしい事です。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

- |                                   |               |
|-----------------------------------|---------------|
| 1.第4 2回日本サーバス国内会議のお知らせ            | 会長 H.T        |
| 2.OnLine 会議の利用                    |               |
| サーバス台北支部とのバーチャル交流会 (Zoom Meeting) | 関東支部長 T.N     |
| 3.国際サーバス会報の紹介                     | 国際部 N.M       |
| 4.T.K さんの事                        |               |
| T.K さんとの出会い                       | 会長 H.T        |
| クリスマスの星の下で                        | 元サーバス会員 故 T.K |
| 5.あとがきにかえて                        | 会長 H.T        |

## 1.第4 2回日本サーバス国内会議のお知らせ

会長 H.T

会員の皆様には支部長さんを通じてお知らせが行っているかと思いますが、第4 2回日本サーバス国内会議を次の要領で行います。コロナ禍を考慮していつもと少し違う所がありますが、どうぞ、ご参加ください。

日時：2021年3月13日（土）13:00～17:00 3月14日（日）9:00～12:00

場所：京都市南区東九条下殿田町 70 番地（新町通九条下ル）Tel 075-692-3400

京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」東館2階 視聴覚研修室

アクセス：JR 京都駅（八条口西口）より南へ徒歩約 15 分

近鉄東寺駅より東へ徒歩約 5 分 市バス九条車庫駅より南へすぐ

その他

- ・部屋は通常 63 人の定員ですが、コロナ禍ですので、31 人に限定されています。又、ZOOM による OnLine 会議も定員 40 名で設定します。どちらも事前申込制にして定員に達したら受付を終了します。参加を希望される方は支部長さんを通じて会長 H.T までお申し込み下さい。但し、OnLine 会議参加の場合は皆の顔が見えるようにビデオは必ず ON、発言時以外は音声を OFF にして下さい。OnLine 会議参加者の発言は時間の関係上制限される場合があります。
- ・例年行っている夕食懇親会はコロナ禍を鑑み行わず、国内会議のみになります。
- ・国内会議の議題は事前に役員の方から出されていますが、3月13日の16:00からはオープン討議と言って、次の要領で全ての会員が直接意見表明が出来る場になります。
  - ①事前議案提出無しでも発言可
  - ②意見表明者は本人、もしくは本人に替わって質疑に答えられる人
  - ③進行は議長が行うが議決はしない。会議での議決が必要と思われれば参加者の合意のもと、翌日の議題に提案できるものとする。提案された「議案」は他の議案と同様の扱いとする
- ・参加者についての会館からの注意事項は下記の通りです。
  - ① 熱がある時や体調がすぐれない時はご遠慮ください。
  - ② 必ずマスクを着用して下さい。
- ・新型コロナウイルスが会場で国内会議をするのに相応しくない状況になれば、会場での国内会議を取り止める可能性があります。その時には連絡します。

## 2.OnLine 会議の利用

サーバス台北支部とのバーチャル交流会（Zoom Meeting）

2020年11月22日15時から16時まで

関東支部長 T.N

台北で開催予定だった交流会参加予定メンバー、関東支部から Ta さん、M さん、Y さん、K さん、C さん、T 夫婦の 7 名、台北支部から G さん、A さん、L さん、P さん、S さん、J さん、B さん、H さんの 8 名、計 15 名で 11 月 22 日（15 時から 16 時まで）にバーチャル交流会（Zoom Meeting）を開催。交流会（Zoom Meeting）には日本側は参加者各自の自宅から、台湾側の 5 人は友人宅に集まり、3

名は自宅や食堂から、それぞれ各自の PC やスマホで参加。交流会 1 週間前に予め Ta さん、G さん、T とで Zoom Meeting のお試し会を行い、Zoom に接続のための Meeting ID や Passcode の説明や画面共有などの機能を共有する。台湾では日本と異なりコロナ感染者が少なく Zoom Meeting はあまり使われていない様子。

T から今回の Meeting について説明： 3 月予定していた台北での交流会はコロナ感染拡大で日本から台湾への渡航が出来なくなり延期せざるを得ずとても残念だった。昨年に関東での交流会はとてもよかったので春の台北での交流会を楽しみにしていた。日本では 11 月になっても一向にコロナ感染拡大が収まらず当分の間台湾への渡航は無理と思われる。コロナが終息すれば是非台北を訪れたいと思っている。今回はバーチャル交流会で交流を図りたいと考えている。

G さんから 6 月に行われた台湾の Meeting (50 人ほど参加) について発表：

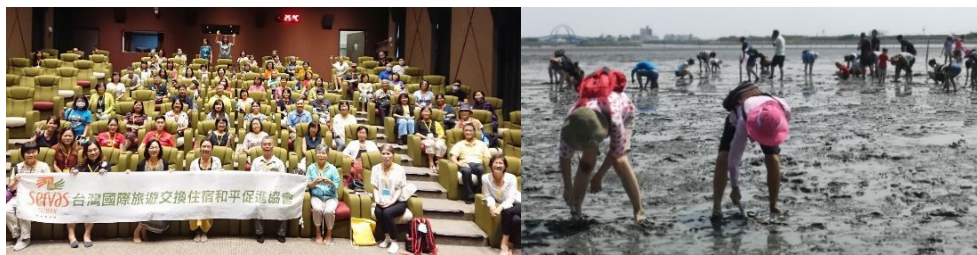
G さんは Meeting で昨年 11 月関東で行われた交流会について発表。3 泊 4 日の交流会に参加、ホスト宅に 2 泊 3 日、逗子での合宿や秋の鎌倉ウォーキングツアーにも参加し日本の文化に触れることが出来たことなどを発表。参加のメンバーからとても羨ましがられたとの説明がある。Meeting 後、懇親会では全員で 4 チームに分かれてアーチェリーゲームを楽しむ。



T からは 11 月 21 日に行われた関東支部秋の親睦会『アートバラ深川』（障害のある方のアート作品約 500 点が江東区深川の深川不動、富岡八幡、清澄庭園などに展示）を鑑賞するウォーキングツアーを発表。参加者は 8 名。

G さんから 9 月に行われた台湾の Meeting について発表。

9 月に台湾北西部で台湾海峡に面している Lukang (鹿港) で一泊二日の Meeting を行う。初日は午前映画、午後 Meeting。二日目は近くのビーチで潮干狩り、その後お寺巡りツアーへ。



この後 Meeting 参加者全員から近況報告。Ta さんから交流会でホストされた J と B からのビデオメッセージの披露、K さんから是非台湾を訪ねたい旨のメッセージ、Y さんから先日旅行した足立美術館について、M さん、C さん、A さん、L さん、P さん、S さん、J さん、B さん、H さんからそれぞれ近況報告。

台湾の愉快なお友達に今回のバーチャル交流会で久しぶりにお会いすることが出来、本当に楽しい一時でした。

2020 年 11 月 26 日記

### 3. 国際サーバス会報の紹介

国際部 N.M

Servas International News Bulletin

Vol.18 No.3 • 2020



今年最後の SI ニュースが発行され、たくさんの記事が載っていますが、それらの中から興味深いものをいくつか紹介しましょう。

・今回のアメリカ大統領選挙では” Black Lives Matter” が世界的に知られることになりましたが、7月17日に亡くなった米下院議員 John Lewis さんの事が載っています。彼はキング牧師とともに公民権運動を戦った仲間で、最後の入院の前日、ワシントンの” Black Lives Matter” 広場に姿を現し、「真実を求める戦いが今なお続いていることをこの目で確かめるためにやって来ました。」と述べ、彼はその言葉を自分の葬儀の日に発表して欲しいと遺言しました。7月30日には全米の新聞紙上で報道され、NY タイムズ紙には「今こそ我々はアメリカの魂を取り戻す事ができる。」という言葉が載せられました。John Lewis さんの死によってキング牧師と共に運動した仲間はすべて地上から天へ旅立って行きました。

・9月11日、サーバス「イラン」の M・G 父娘はオンラインで「ヘブライ語とアラビア語教室」を開き、トルコ、イタリア、メキシコ、ジョージアの会員が参加しアルファベットや簡単な単語などを学習しました。ヘブライ語はアラビア語やペルシャ語と同じく右から左に書くそうです。日本語と同じですね。講座の最後に娘の G さんが美しい声でヘブライ語の歌を披露したそうです。

・サーバス・タンザニアで長らく会長を務めた P.M さんが9月4日に亡くなりました。68歳でした。

・サーバス「マラウイ」の青年会員たちが献血募金のため31の山峯を制覇するボランティア活動をしたところ、これに12歳の少年二人が参加し見事に完歩しました。その結果彼らは3000ドル以上の金額を集めることができました。

・サーバスについて情報を集めるにはいろいろな源があります。例えば、Facebook、Traveling for Peace、Servas PeacePage、Instagram、Twitter など。皆さん、どうぞアクセスしてみてください。

### 4. T.K さんの事

T.K さんとの出会い

会長 H.T

T.K さんは2019年12月にサーバスの contact us を通じて、サーバスに寄付をしたいと連絡して下さいました。そして、本部会報2020年1月号に書きましたように、贈与税非課税限度額ぎりぎりの110万円を寄付して下さい、同じ会報に載せている T.K さんのサーバスでの体験を寄稿して下さいました。その時 T.K さんは既に失明されていて、癌の末期で治療中だったので、お見舞いに行きたい

と連絡したら、京都に来て下さる事になり、サーバスの役員の方と我が家で昼食をして、東福寺を観光して頂きました。お会いした時は癌の末期で余命宣言を跳ね返して生きていられる事や失明されている事を全く感じさせない程お元気でした。T.Kさんは若き日に世界を見て歩き、それが自分の人生にとっても有意義であったので、今の若い人にもどんどん旅行に行つて欲しいと意欲的に語って下さいました。京都の桜が見たいとも言われて近畿支部で「T.Kさんと楽しむ京都」という例会を計画しましたが、あいにくコロナ禍のため実現出来ませんでした。6月には伏見稲荷大社に鳥居を奉納される話をしました。T.Kさんにメールや電話をしても体調の悪い時はすぐに返事が返って来ない時が良くあります。でも、全く音沙汰無しがあまりにも続くのでお家にお便りを出すと、数日して遺言執行者の方からお亡くなりになられたお知らせが来ました。こんな事ならもっと早くお会いしておいたら良かったと後悔しきりです。12月からのメールを見るとT.Kさんは余命宣言をされながら旅行に行きたいと10年のパスポートを取られたり、いつも前を向いて生きていられる懐かしいやり取りが一杯あります。コロナ禍さえなければ、もっと共に楽しい時を過ごせたのにと悔しい思いです。



正面が T.K さん

せめてお墓参りをしてT.Kさんのご冥福をお祈りすると共に、T.Kさんがサーバスに寄付して下さいましたお金がT.Kさんの遺志が叶う良い使い道を会員皆で考え、有効に活用したいと思います。

最後に寄せて下さっていた原稿を添付しますので、どうぞお読み下さい。

### クリスマスの星の下で

元サーバス会員 故T.K

皆さん今日は。今までにも何度か障害者としての体験発表をしてくださいと頼まれた事がありましたが、その都度断りました。それは僕たち障害者の体験が健常者の人たちに生きる力を与えるという理由しかなかったからです。「致知」の本の中にもそういった記事が最近多いように思えます。しかし、それらを発表できる人は、その苦勞から脱皮できた人なのです。残念ながら、僕の場合はいまだにその差別と卑屈な環境から脱皮する事ができていません。しかし、その脱皮の第一歩として、あえてこの場に立つことにしました。本日はそんな中で今まで書いてきた著作物のお話をさせていただきます。

今までに短篇小说を含めると12編くらいの物語を書きました。それらのそれぞれはフィクションもありノンフィクションもありました。まずは第一巻の「世界一周ひとりぼっちの旅」の出版についてお話ししましょう。出版した頃の僕は最悪の状態、中途失明が発生しだし、視力が1.0から0.1に急激に下がり、視覚障害者としての障害手帳を申請した年でした。国立神戸視力センターに通いながら全盲者になった時のことを考え、鍼灸マッサージの免許を取るべく勉強していたのです。この学校のほとんどは中途失明者が集まっており、生徒のほとんどが一時は生きる望みを失い、自殺未遂を考えた人ばかりでした。実際僕が3年間のカテゴリーを終了して、国家試験に受かるまでの間に、2人の友人が自殺しました。生活能力の喪失により離婚された男性、又、幼児を抱えたまま目が見えないと子供も育てられないと、嫁ぎ先からわずかの手切れ金を渡されて、子どもを引き取られ出て行かされた若いお母さん。そんな中で僕も一人前に、リストカットらしき真似事をして、自殺を図りました。ところが何も知らない娘の言葉で立ち直ることができたのです。その言葉は「おとうちゃん、

死なんといてな」といった言葉です。何か気になる事があったのでしょうか。それはまさに天の神様からの言葉のようにも思えました。勿論小学生の娘は、自殺という言葉の意味さえ知りません。そして、僕がそれほど悩んでいるのさえも知らなかった事でしょう。そんな時、もしもこのまま僕がこの世とさようならするとしたならば、せめて自分が生まれてきたあかしを、この世に残したいと思ったのでした。それは自分にとって、最も功績のあったと思える2年間にわたる一人での世界一周の旅だったのでした。何度も何度も死ぬ目に遭いながら、やっと日本の地を踏んだ感激は忘れる事ができず、今の自分を強くしてくれたのも、この旅のおかげでした。しかし、その旅は24歳から26歳の期間の出来事でありまして、目の悪くなった時は、もうすでに30年以上経っていました。そのために記憶は薄くなっていました。書棚を探し、英文で書かれた日記を探し出し、ボランティアの人に読んでもらいました。若い頃の体験は不思議と覚えているものでして、キーボードをたたくと、思いのほか指が進むのでした。この自分の栄光の記録を残して死のうとも考えました。それからというもの、何日も何日も深夜までのワープロ作業が始まりました。そして、ある人の協力により、2年間かけてその記録は完成されました。書いているうちに事実と異なる面も多く出てきましたが、面白おかしく書きあげたために、それを読んでくれた友人たちは、「お前なかなか文才があるな。あれ面白かったよ」と言ってくれたのでした。人間、自信というものはどこから出てくるかは分からないものですね。その友人の言葉により、「俺はまだ世間に認められる人間だ」と自分自身に勇気をもたらす事ができたのでした。それからというもの調子に乗り、盲人シリーズを書き続けお手元の名刺の裏に書いているような愚策な作品を書きあげたのです。しかし、正直言って、作品を書くたびに、皮肉にも自殺の願望は強くなる一方でした。特にヒマラヤの山々に登った時などは同じ死ぬならば、電車にはねられたり、東尋坊でがけから飛び降りたりするなどではなくて、世界のヒマラヤの雪の上でなだれとか滑落事故により、大きく新聞に載せられて死んでいきたいとも思ったのでした。何度かの危険な目には合い、そんなチャンスはあったものの、シェルパのとっさの判断で、元気に生還する事ができたのでした。それからも見えない目で登山を続け、健常者でも恐れるスポーツもやりましたが、何度も怪我こそすれ、最後には復帰するのです。余程この世でやりつくしていない事が多かったのでしょうか。まだ両親の待つあの天国には招かれません。今でも自殺の願望は消えていません。先日キューバに行きました。ノーベル賞作家のヘミングウェイが自殺したという国、彼の住んでいた豪邸と、彼が人生の中で4人の妻を代えながら、まだ満足できない彼の人生の奥底に何が隠されていたのかを知りたかったからです。彼の作品の中にも何となく彼の心境も書かれています。それは僕のような障害によるものではなく、何らかの自分自身に自信を失ったものなのだと思います。そういった面では、少しは僕と共通点があるのですが、その次元はかなり異なる事でしょう。太宰治氏、川端康成氏、芥川龍之介氏、三島由紀夫氏などの天才的な人物には何か共通点があるようです。要するに僕は彼等に比べて意志が弱いのでしょうか。このまま長生きするとすれば、みじめな面しか見せる事もできず、子どもたちからも面倒くさがられ、安い老人ホームに連れていかれるのも目に見えています。偉人賢人の功績を致知の本で読む時、この先いかに死ぬべきかを今真剣に考えていきたいと思うのです。作品の中で、「母よ」というものもありますが、これも老人問題をテーマにしたものであり、親とは子どもに何をすべきなのかを問うた作品です。「北欧の森」では子供が幼い時に「私が大きくなったならば、お父さんを連れて海外旅行に連れて行ってあげるわね」との言葉をいまだに信じつつ、夢の中で見た父娘との二人旅を書いたものでした。そしてその中には、子どもという人物は本当に自分の子供なのかもわからない父親の妻に対する不信もチョッピリ付け加えました。「女のつまずき」

はモーパッサンの女の一生をまねたもので、女性の一生は男性に比べて波乱万丈の人生であるが、女はつまずいても決して転ばない、男は転ぶともう立ちあがれなく自殺の道を進むしかないとの比較を書いたものです。「ロッキー物語」は夫婦とは何か。家族とは何かを、自分の過去と友人の過去を参考に、第三者としての飼犬の目から見た、家庭のいざこざを書いたものです。最後の「ある日旅立ち」はすこし「おしん」の真似をしたのですが、男性と入れ替えて、波乱万丈の男性の人生を描いてみました。人生何があろうともいずれは死んでいってしまう。その過程においてよき人との出会いを活かす事により少しでも幸福の糸口をつかめるのではないかと、僕が死んだ後の生まれ変わった時の理想の姿を書きあげました。何もない平凡な人生よりも、やはり波乱万丈な人生の方が生きてきたとの思いが強いのではないかと思ったからです。これらの連載を通じて一見自己顕示欲によるもののように見えますが、実は一作一作ごとに自殺願望は増しているのです。これらを通じて作家という人物像がなんとなくわかりだしたような気がします。幸福な人には小説は書けないという事が。小説とは基本的に妄想から成り立っていますが、それは其の作家自身が歩んできた道に色を付けているだけに過ぎないのではないかと思うのです。その著者が苦しみ、悩み、葛藤し、それを紙面にぶっつけて読んでもらう人に訴える。それが劇的であればあるほど読者は感動するようです。そして極限には誰もわかってくれないとの思いで自殺をするのではないかと。にわか素人作家としての自分もそう感じているのです。人生の幸福とは、ひょっとして才能のない事かもしれませんね。あの有名な野球選手の「イチロー」は人の何倍も練習したといわれていますし、ノーベル賞を取られたあのIP細胞を開発された山中教授は何百回もの失敗の果てに成果を得られたとあります。そんな事をするくらいなら、生活に値する給与さえあれば平凡な人生を送るほうが、ある面では幸福かもしれないとも考えます。ただ悔しいのは苦勞した分だけ見えないものが見えてくるのも事実です。そう考えると苦勞もまた良し、不幸もまた良しだと言えるのかもしれません。目が見えているから幸福だ、目が見えていないから不幸だとは一概に言えないようになりました。そして最後には宿命は避けがたいが、運命は自分の力によって切り開かれる。毎回のように「致知」の本に書かれているように、自分の人生に逆らわないで、素直に生き、物事にこだわらないで生きていく事が一番幸福のように思っています。

以上ですがこの原稿を下書きした後に癌が発見されました。「早く天国に來い」という事でしょうか。イヤ まだまだ早い、完治は無理でも癌と共榮共存で楽しみながら、あと10年は皆様方と一緒に過ごしたいと思います。有難うございました。

2019年12月25日クリスマスの星の下で。

## 5.あとがきにかえて

会長 H.T

- \* 会報が出来ました。原稿を寄せて下さって、ありがとうございました。
- \* 第42回日本サーバス国内会議の案内を載せています。コロナ禍のために出来なくならないように切に祈ります。参加して頂ける会員さんは支部長さんを通じてお申し込みください。
- \* T.Kさんが執筆された本をサーバスに下さり、会長が保管しています。会員の方にお会い出来る時にお持ちしますので、どうぞお目通し下さい。
- \* 皆様揃いで良き年末、新年をお迎え下さい。来年もどうぞ宜しくお願いします。

以上